

テーマ 7-(1)

「呼び、そして名乗ること」(人権課題:外国人)

1 学習のねらい・人権教育の視点

- (1) 国籍や民族の異なる文化や慣習を尊重し、偏見や差別の不合理性を理解し、その解消に向けて行動する意欲や態度を身につける。
- (2) 「呼び、そして名乗ること」を読み、自分たちに身近な県内の在日韓国人の高校生が本名宣言した際の悩みや葛藤を知り、在日韓国・朝鮮人など外国人県民と互いの違いを認め合い、共に生きる社会を作ろうとする意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 在日韓国・朝鮮人の生徒がクラスにいることも考えられる。各校の実態に合わせて指導することが必要である。
- (2) 在日韓国・朝鮮人生徒に本名を名乗ることを強いるような指導にならないよう留意する。

3 展開例

学習活動	指導上の留意点、使用する資料
1 資料「呼び、そして名乗ること」を読む。	○ わからないこと事項があれば、挙げさせる。
『選挙行けるやん』といわれて、なぜ筆者は胸がつかえた気持ちになったのだろうか。	
2 発問について個人で考えたあと、グループで話し合う。	○ 在日韓国人であることから選挙権がないことや国籍や本名についての複雑な感情について気づかせる。 ○ 右ページの資料をもとに、在日韓国・朝鮮人の歴史的背景について理解させる。 ○ 資料「県内外国人総数／国籍・地域別推移」から、在日韓国・朝鮮人が最多であることや、同様の課題をもつ外国人が多数・多様に県内に居住していることを理解させる。
筆者がなぜ帰化しない選択肢をとったのか、その心情について考えてみよう。	
3 筆者にとって、国籍や本名がどのような意味をもつのか考える。	○ 『帰化しない』という筆者の選択を通して、在日韓国・朝鮮人をはじめとする外国人にとって、国籍や本名は重要なアイデンティティの要素である事を理解させる。また、本名で呼ぶことが、異なる文化や慣習などを尊重することにつながっていくと気づかせる。
クラスメートが本名宣言をしたら、あなたなら、どのような対応をするだろうか。	
4 自分が本名宣言を受けた際に、どのような対応をするか、具体的な言葉や留意点について考える。	○ 本名の意義や本名宣言の背景にある葛藤を踏まえて考えさせる。 ○ 自分が「人に打ち明けたら相手にどんな反応をされるだろうか」と不安になることを、カミングアウトした立場から考えさせてもよい。
身近な地域で行われている、文化や慣習の違いを認め合う取組を調べてみよう。	
5 ワークシートに記入する。	○ 教師側からも「マダン」などの情報提供をすると共に、調べた取組への参加を促す。

[ワークシート]

## 呼び、そして名乗ること

年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

1 資料『呼び、そして名乗ること』を読んで、以下について、グループで話し合い、考えてみよう。

① 『選挙行けるやん』といわれて、なぜ筆者は胸がつかえた気持ちになったのだろうか。

② 筆者が帰化しない選択肢をとった心情について考えてみよう。

③ 筆者にとって、国籍や本名はどのような意味をもつのか考えてみよう。

④ クラスメートが本名宣言をしたら、あなたなら、どのような対応をするだろうか。具体的な言葉や留意点を書き出してみよう。

2 身近な地域で行われている、文化や慣習の違いを認め合う取組を調べてみよう。